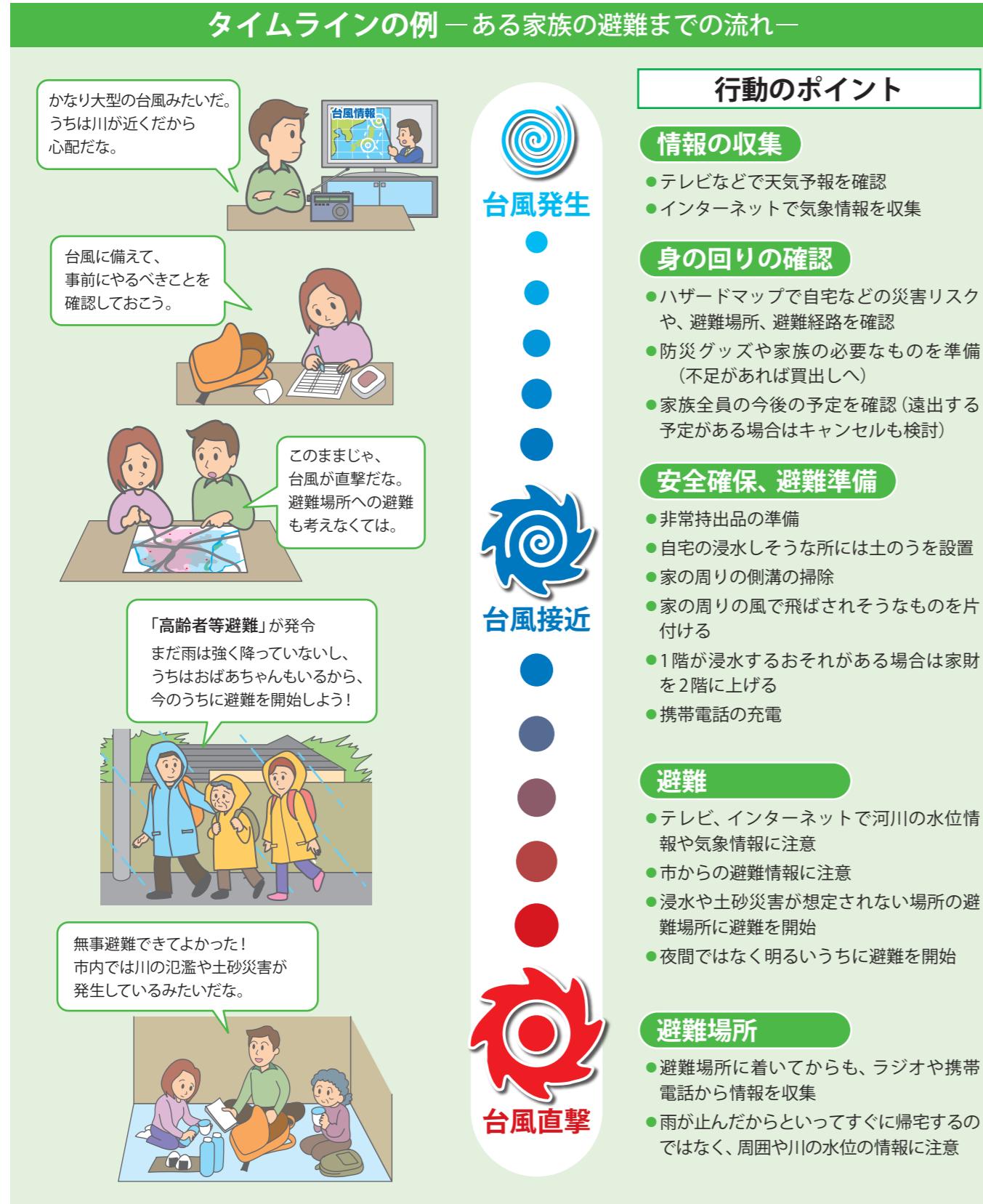




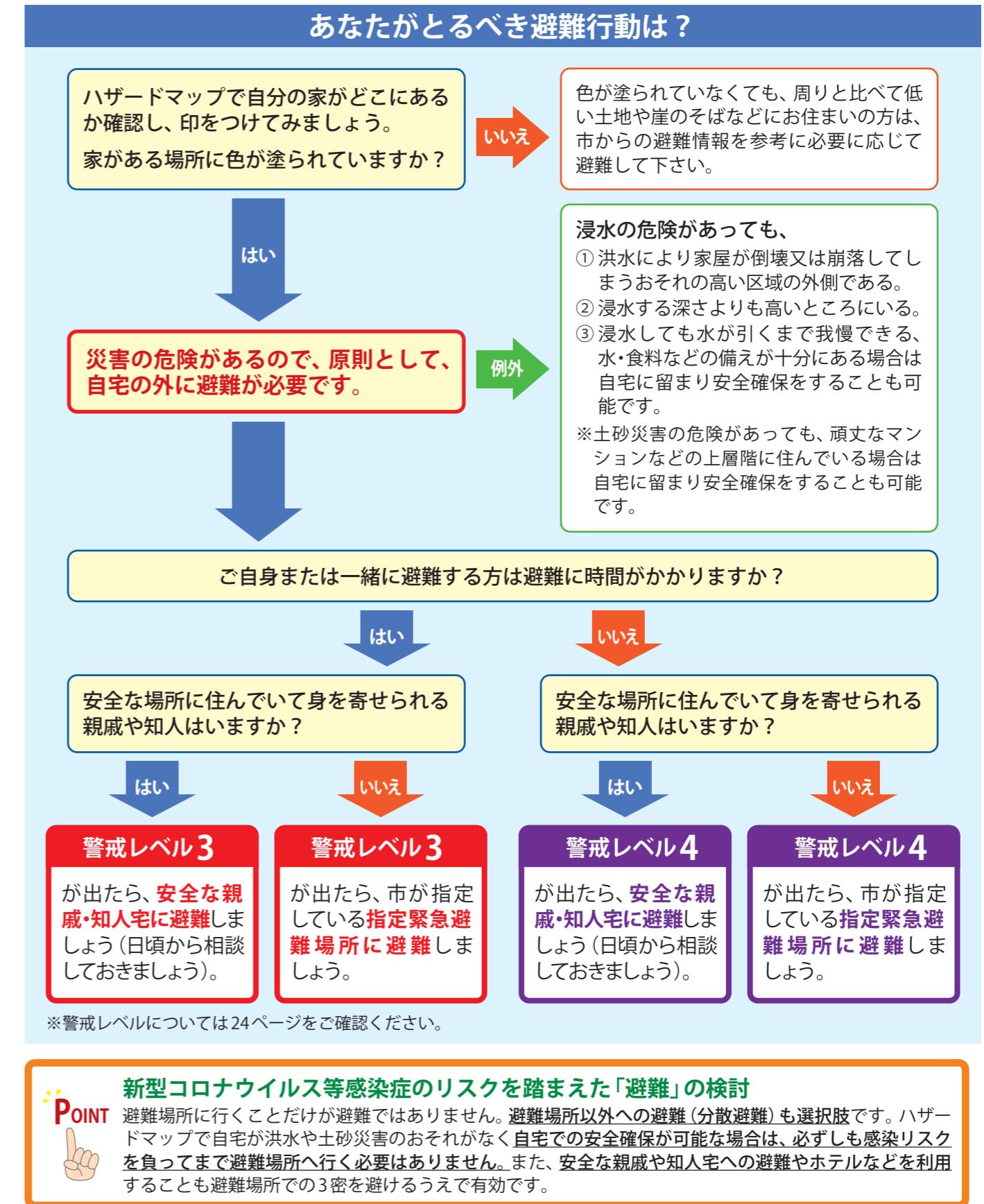
## マイ・タイムラインを作ろう

台風のような風水害は、あらかじめ接近を予測できる災害です。災害の発生を前提に、災害時に発生する状況を想定し、「いつ」、「誰が」、「何をするか」を時系列に整理した「タイムライン」を事前に検討しておくことが大切です。「タイムライン」を作ることは、必要な情報とそれに応じた行動を時系列に整理することができるため、いざというときに余裕をもって対応することにつながります。



## 避難行動判定フロー

実際に災害が近づくと、なかなか決断がつかず避難のタイミングをのがすケースが多くあります。「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクといざという時にとるべき行動を平時から確認しましょう。





## 情報収集の心得

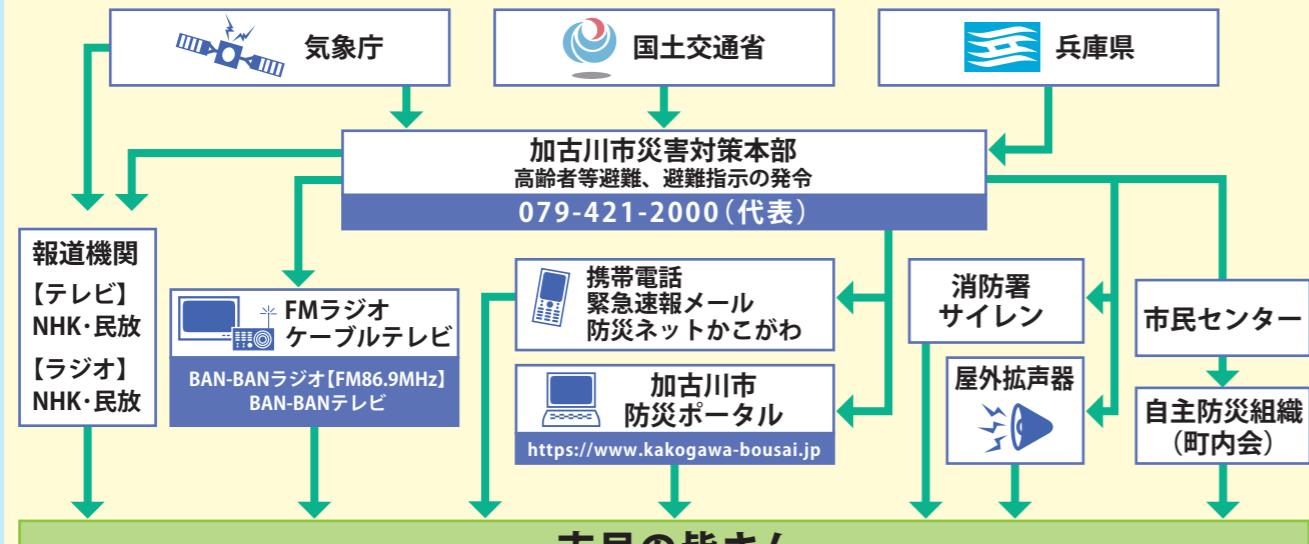
市は気象情報をもとに、災害情報や避難の呼びかけをしますが、市民一人ひとりが積極的に情報収集し、避難が必要か状況を確認し、考えて行動することが大切です。

### いろいろな情報収集の方法

大雨時は、自ら情報収集する意識が大切です。台風などの接近は数日前から予測することができるので、事前に情報収集することで、災害に対する備えをしましょう。



### 災害情報伝達経路



## スマートフォンやパソコンを活用しよう

スマートフォンやパソコンなどの普及により、これまでの災害教訓や緊急時に役立つ様々な防災情報が簡単に手に入るようになりました。これらを活用した情報収集手段を確認しましょう。

### いろいろな情報収集手段を確認しよう

#### テレビのデータ放送で情報収集

災害時には地上デジタル放送テレビのデータ放送を通じて、兵庫県内の市町が避難情報（避難指示、避難場所開設）を発信しています。

- ①NHK総合テレビにチャンネルを合わせ、リモコンの『d（データ放送）』ボタンを押す。
- ②リモコンで「防災・生活情報」に合わせ、『決定』を押す。
- ③「河川水位・雨量」や「警報・注意報」など確認したい項目に合わせ、『決定』を押す。



#### ラジオで情報収集

情報収集の手段の一つとして、ラジオが挙げられます。小型ラジオなどを持ち歩くのが一番確実ですが、スマートフォンならアプリを利用してラジオを聞くこともできます。



#### ワンセグ・フルセグテレビで情報収集

お使いの携帯電話・スマートフォンにワンセグ・フルセグテレビを受信できる機能があれば、停電でテレビが見ることができない場合でも情報収集ができます。



#### インターネットで情報収集

加古川市をはじめ、兵庫県や国の各機関では、インターネットを通じて様々な防災情報を発信しています。  
(国、県、加古川市の発信する防災情報→79ページ)



#### SNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

LINEやFacebookなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、インターネットを通じてコミュニケーションができるサービスです。情報交換や安否確認の手段として活用することができます。



#### 安易な情報に惑わされない

災害発生の危険性が高まっているとき、または災害が発生したときには、市役所や消防・警察・テレビ・ラジオなどの正しい情報を入手し、デマに惑わされないようにしましょう。



### スマートフォンアプリを活用した情報入手

スマートフォンアプリの中には、様々な災害に関する情報をいち早くお知らせしてくれるアプリがあります。



#### NHKニュース・防災

- 最新ニュースや災害情報をいち早くお届け。
- 速報や災害・避難情報をプッシュ通知でも。
- マップ上で雨雲や台風、河川情報をチェック。
- 災害時などにはライブの放送同時提供も。



#### Yahoo! 防災速報

- 緊急地震速報や豪雨予報をはじめ、様々な災害情報をプッシュ通知でいち早くお知らせします。
- 現在地と国内最大3地点に通知可能。移動中や旅行中も安心です。
- アプリ画面上で、現在地や登録した地域ごとに最新の災害情報のほか、災害の種類ごとの避難場所を確認できます。



## 避難時の心得・注意点

避難指示が発令されたら、速やかに危険な場所から避難しましょう。

過去の災害では、避難途中で災害に巻き込まれ犠牲になられた方もいます。情報と現状をもとに自らが判断し、早めの避難を心がけましょう。

### いろいろな避難の方法

#### 立退き避難



逃げ遅れたら

気象情報や防災情報をもとに、早めの避難を心がけましょう。避難場所だけでなく、安全な親戚・知人宅も避難先と考えられます。

#### 近隣の安全な場所への避難



逃げ遅れたら

大雨や強風などにより、長距離の移動が危険をともなう場合には、避難場所にこだわらず、「近隣の安全な場所」へ避難しましょう。

#### 屋内の安全な場所への避難



逃げ遅れたら  
垂直避難

最低限の避難行動として、建物の2階以上や、斜面とは反対側の部屋に移動して、安全を確保しましょう。

### 避難は、「浸水が始まる前」「自主判断」「徒歩」が大原則です

避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

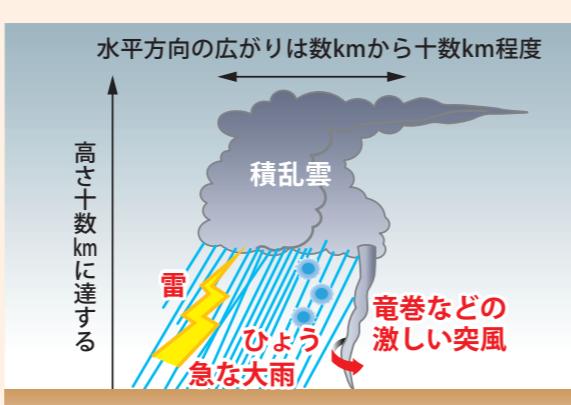
## 積乱雲(雷雲)に注意しましょう

大気の状態が不安定なときには、積乱雲(雷雲)が発達して、急に強い雨が降ったり、雷や竜巻が発生しやすくなります。

近年頻発している豪雨災害の原因とされる線状降水帯も、複数の発達した積乱雲の集合体が同じ場所を通過または停滞する気象現象です。

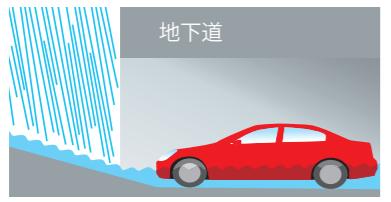
#### 発達した積乱雲の近く兆し

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が急に暗くなる
- 雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す
- 大粒の雨や『ひょう』が降り出す



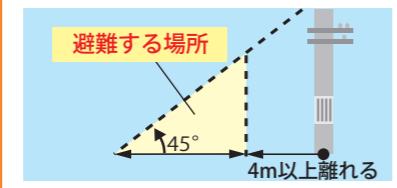
#### 急な大雨に注意

- ①すぐに水辺から離れる
- ②浸水した場所に注意する
- ③地下道は、特に注意する



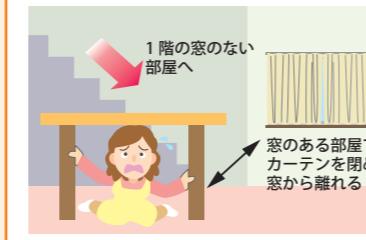
#### 雷に注意

- ①雷鳴が聞こえたらすぐ避難する
- ②建物や自動車の中へ避難する
- ③木や電柱から4m以上離れ、姿勢を低くする



#### 竜巻に注意

- ①頑丈な建物の中へ避難する
- ②屋内でも窓や壁から離れる



## 浸水が始まる前の早めの避難行動を

浸水が始まると、水深が浅くても移動することが困難になります。気象情報や河川の水位情報をもとに、身の危険を感じたら直ちに避難しましょう。車の移動も故障や渋滞に巻き込まれるおそれがあるため、徒歩での移動を心がけましょう。

#### 歩行が困難になる浸水の深さ



成人男性 70cm  
成人女性 50cm  
子ども・高齢者 20cm

#### ドアが開かなくなる浸水の深さ



成人男性 40cm  
成人女性 35cm  
子ども・高齢者 30cm

#### 車が止まってしまう浸水の深さ



車種によってはタイヤの半分くらいでエンジンが止まることもあります。

## 立退き避難の注意点

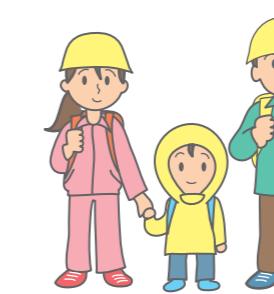
避難するときは、隣近所で声を掛け合い、なるべく複数人で避難するようにしてください。  
危険な箇所は避けて、遠回りでも安全な道を歩いてください。

#### 移動は二人以上で、みんなで助け合って避難を



一人だと、いざという時に助け合えません。避難するときは隣近所のお年寄りや障がいのある方に声をかけ、協力して避難しましょう。

#### 避難は動きやすい服装で



長靴やサンダルは危険です。運動靴をはき、両手が自由になるよう持ち物はリュックサックに入れて避難しましょう。

#### 夜間の避難は要注意！



夜間の避難は周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しましょう。

#### 危険な場所には近づかない



地下道や地下空間、河川の近くは浸水の可能性が高く、危険です。また、斜面は崩れ落ちる危険があるので、近づかないようにしましょう。

#### 流れのある場所には近づかない



ゆるやかな流れでも、ひざの高さになると大人でも歩くのが困難です。小さな河川や流れのある場所に近づかないようにしましょう。

#### 浸水している場所には注意が必要



浸水している場所は茶色く濁っており、水路と道路の境や側溝、ふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認するなど、注意しながら移動しましょう。



## 危険度分布を確認する

気象庁では、災害に結びつくような激しい気象現象が予想される場合、テレビ・ラジオ・インターネットなどを通じて気象警報・注意報などの防災気象情報を発表しています。これら大雨特別警報、土砂災害警戒情報、洪水警報などが発表されたら、危険度分布で状況を確認し、自宅に迫る危険度を把握しましょう。

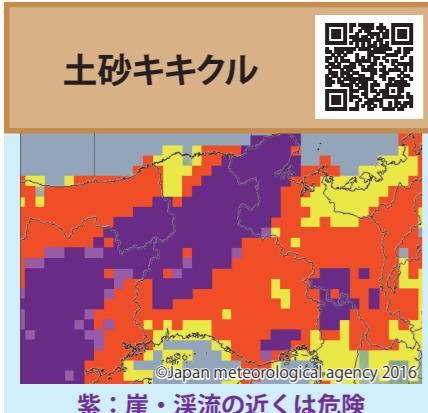
### 気象庁による防災気象情報

<b>特別警報</b>	重大な災害の危険性が著しく高まっている状況
<b>土砂災害警戒情報</b>	大雨による土砂災害発生の危険性が高まったとき、県と気象庁が共同で発表
<b>記録的短時間大雨情報</b>	数年に一度（兵庫県南部では、1時間雨量110mm）の猛烈な雨が観測された場合に発表
<b>大雨警報・洪水警報</b>	大雨、洪水によって重大な災害が起こるおそれのある状況
<b>大雨注意報・洪水注意報</b>	大雨、洪水によって災害が起こるおそれのある状況

### キキクル（危険度分布）の確認方法

気象庁ホームページでは、土砂災害・浸水害・洪水それぞれのキキクル（危険度分布）を随時見ることができます。

住所を登録しておけば、その地域が危険になったら自動的にスマートフォンに通知するキキクル（危険度分布）の通知サービスもあります。



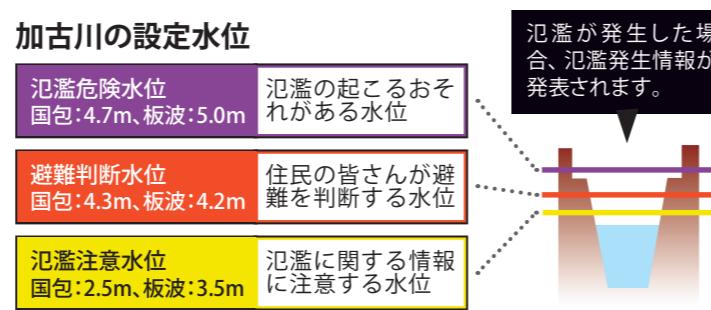
どこで大雨による土砂災害発生の危険度が高まっているかを地図上で把握することができます。

短時間強雨による浸水外発生の危険度を分布として表示しています。

個々の中小河川において雨量予測に基づき予測される洪水発生の危険度の高まりを地図で確認できます。

### 水位観測所における設定水位による洪水予報

河川の増水や氾濫などに対する水防活動の判断や市民の避難行動の参考となるように、気象庁と国や兵庫県が共同して、加古川の水位または流量を示した洪水の予報を行っています。洪水予報には氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報の4つがあり、加古川においては、国包および板波水位観測所の水位をもとに設定されています。



## 防災気象情報と避難

防災気象情報は気象庁や県などが河川水位や雨の情報に基づいて発表している情報です。市町村が発表する避難情報の警戒レベルに相当しており、避難の目安となります。

防災気象情報		避難情報の警戒レベル
河川の氾濫による浸水の情報	大雨による土砂災害の情報	
氾濫発生情報が発表されたとき	大雨特別警報（土砂災害）が発表されたとき	警戒レベル5に相当
氾濫危険情報が発表されたとき	土砂災害警戒情報が発表されたとき	警戒レベル4に相当
氾濫警戒情報が発表されたとき 洪水警報が発表されたとき	大雨警報が発表されたとき	警戒レベル3に相当
氾濫注意情報が発表されたとき 洪水注意報が発表されたとき	大雨注意報が発表されたとき	警戒レベル2に相当
—	早期注意情報が発表されたとき	警戒レベル1に相当

### 避難情報と避難行動

市では、災害が発生するおそれがある場合には、緊急速報メールなどを通じて避難情報を発令します。避難情報が発令された際に、どのような状況が差し迫っているかを把握し、どのような行動をとらなければならぬかを下の表から確認しましょう。

警戒レベルと避難情報	発令時の状況	市民がとるべき行動
警戒 レベル5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！ 災害が発生・切迫している状況です。避難場所等への避難が安全にできない場合は、自宅や近隣の建物で緊急的に安全を確保しましょう。
<b>~~~~~&lt;警戒レベル4までに必ず避難!&gt;~~~~~</b>		
警戒 レベル4	避難指示	危険な場所から全員避難 危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）してください。 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内より安全な場所に避難しましょう。 ※避難方法についてはP9、P18を確認してください。
警戒 レベル3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間を要する人（高齢の方、障がいのある方）は危険な場所から避難しましょう。 高齢者等以外の人も必要に応じて、普段の行動を見合わせたり、状況に応じて自主的に避難しましょう。
警戒 レベル2	大雨・洪水・高潮注意報	自らの避難行動を確認 加古川市総合防災マップ等で自らの避難行動を再確認しましょう。
警戒 レベル1	早期注意情報	今後気象状況悪化のおそれ 災害への心構えを高める

※令和3年5月より「避難勧告」が廃止されるなど避難情報の名称や考え方が変わりました。



まとめ

## 大雨時の防災情報とるべき行動の目安

大雨時には、様々な機関から防災情報が発表されます。発表される情報を正しく理解し、るべき行動に結びつけることで、危険から身を守りましょう。





## 自宅からの避難を考えよう

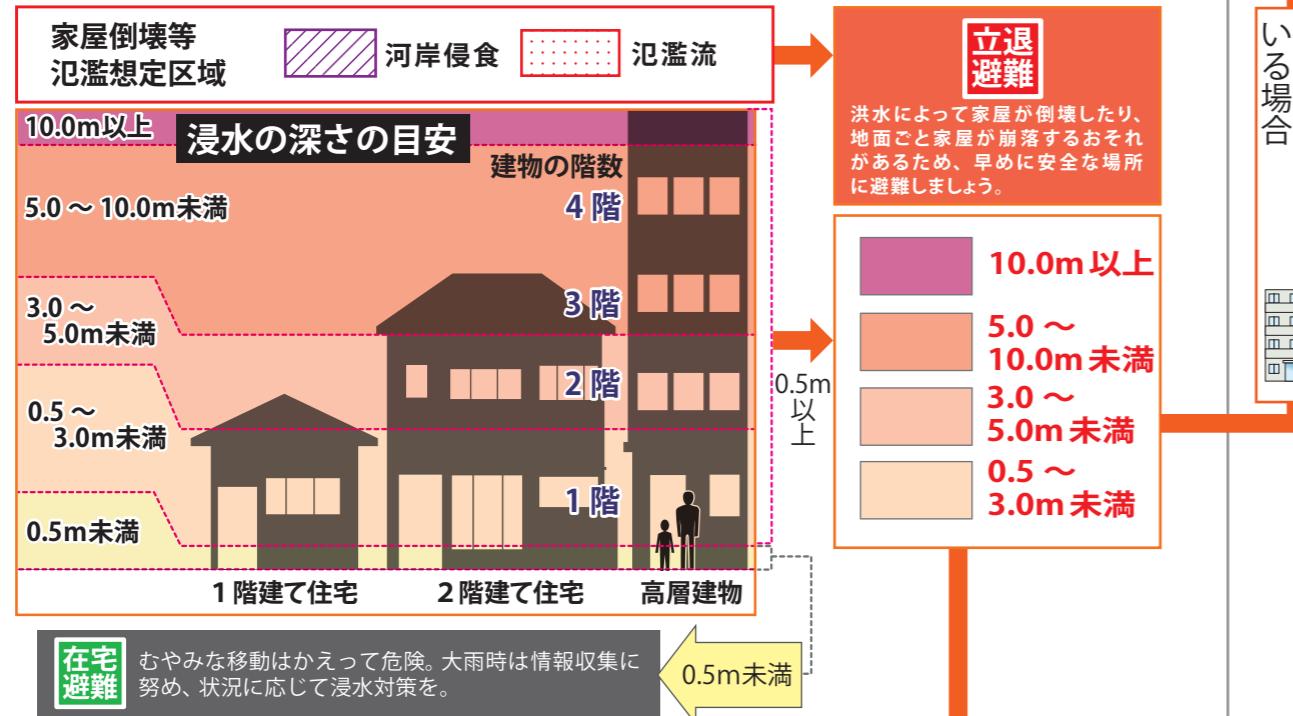
避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

お住まいの住居が戸建住宅であるか、集合住宅であるか、建物の階数が何階か、付近に土砂災害の区域があるかといったそれぞれの状況によって、とるべき行動は異なります。下のステップに従ってハザードマップを確認し、大雨時に自分がとるべき行動の目安を知り、いざという時に備えて平時から何ができるかを考えてみましょう。

とるべき行動 (凡例)	<b>立退避難</b>	河川などが氾濫する前に、早めに自宅以外の安全な場所へ事前避難を。
	<b>垂直避難</b>	状況に応じて、建物の高層階に垂直避難を。
	<b>在宅避難</b>	むやみな移動はかえって危険。大雨時は情報収集に努め、状況に応じて浸水対策を。

**Step ①** 33ページ以降の洪水・土砂災害ハザードマップで自宅の位置を確認し、周辺の「氾濫想定（家屋倒壊等氾濫想定区域）」や「浸水の深さ」などを確認しましょう。

自宅の位置は家屋流失のおそれがありますか？「浸水の深さ」の着色の色は？



**Step ② 戸建住宅でのとるべき行動の目安を知りましょう。**

### 戸建住宅

お住まいの戸建住宅の階数と、地図上での着色（浸水の深さ）を確認し、とるべき行動の目安を知りましょう。

階 数	想定される浸水の深さ		
	0.5~3.0m未満 (1階部分が水没するおそれ)	3.0~5.0m未満 (2階部分まで水没するおそれ)	5.0m以上 (3階部分まで水没するおそれ)
3階建て	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難	立退避難
2階建て	立退避難 垂直避難	立退避難	立退避難
1階建て	立退避難	立退避難	立退避難

## 避難を考える上の留意事項

- ①ハザードマップでは、最悪の事態を想定しています。加古川、法華山谷川、喜瀬川などの氾濫が起こることを前提に、避難を考えしてください。
- ②ここで示すのは、大雨時にとるべき行動の目安であり、絶対的なものではありません。身の危険を感じたら、命を守る行動をとってください。
- ③被害想定がない区域においても、絶対安全というわけではありません。もしもの場合を考えて行動してください。

**Step ③ 集合住宅でのとるべき行動の目安を知りましょう。**

### 集合住宅

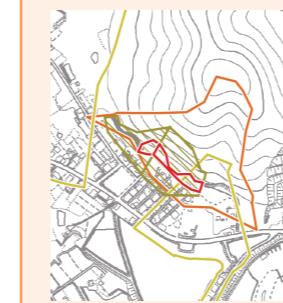
お住まいの集合住宅の階数と居住階、地図上での着色（浸水の深さ）を確認し、とるべき行動の目安を知りましょう。

※集合住宅の場合、いざという時には、共用部分の廊下などへ垂直避難することができます。あらかじめ話し合っておきましょう。

階 数	居住階	想定される浸水の深さ		
		0.5~3.0m未満 (1階部分が水没するおそれ)	3.0~5.0m未満 (2階部分まで水没するおそれ)	5.0m以上 (3階部分まで水没するおそれ)
4階建て以上	4階以上	在宅避難	在宅避難	在宅避難
	3階	在宅避難	在宅避難	立退避難 垂直避難
	2階	在宅避難	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難
	1階	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難
3階建て	3階	在宅避難	在宅避難	立退避難
	2階	在宅避難	立退避難 垂直避難	立退避難
	1階	立退避難 垂直避難	立退避難 垂直避難	立退避難
2階建て	2階	在宅避難	立退避難	立退避難
	1階	立退避難 垂直避難	立退避難	立退避難
1階建て	1階	立退避難	立退避難	立退避難

**Step ④ 土砂災害からの避難を考えましょう。**

ハザードマップ上で自宅が土砂災害の区域内にあるかを確認する。



### 建物の構造は？

ある

### 木造

ない

### 鉄筋コンクリート構造などの頑丈な建物

在宅避難

むやみな移動はかえって危険。大雨時は情報収集に努め、土砂災害に関する情報に注意を。

### 立退避難

土砂災害によって家屋が倒壊するおそれがあるため、早めに安全な場所に避難する必要があります。

### 立退避難

頑丈な建物であっても、土砂の流入が想定されるため、早めに安全な場所に避難する必要があります。

※ただし、逃げ遅れた場合は、山とは反対側の2階以上の部屋に移動するなど、屋内の安全な場所へ移動してください。

